



# 大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

平成31年1月7日  
横浜市立帷子小学校  
学校だよりNo.9 1月号  
横浜市保土ヶ谷区  
川辺町65-1  
Tel.045-335-5896

I believe in future 新たな年の始まりにあたって

校長 齋藤 容二

平成31年が明けました。平成最後となる年頭にあたり、保護者・地域の皆様には謹んでお慶び申し上げます。

また、旧年中は本校教育活動へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、子どもたちは安全に過ごし、たくさんの活躍する姿が見られました。本年も変わらぬご支援をいただけますよう、よろしく願いいたします。

「災」

漢字検定協会主催で毎年行われているその年を表す漢字ですが、昨年一年を表す漢字一字に決まったのは「災」でした。「災害」「災い（禍い）」等含めた意味の漢字です。繰り返される自然災害のため、多くの方が被害に遭われました。現在もまだ避難生活をされている方も多くいます。一日も早い復興を願うばかりです。これら自然災害は「天災」ではありますが、一部では「人災」の面もあるのではないかという意見も出されています。それは、地球温暖化による気候の変化、急激な開発、山林の保全不足、設備の老朽化及び点検・確認・補修不足、連絡体制の機能不足等です。今後も温暖化が続き、さらに高齢化社会、人口減少による労働人口の減少が続けば、さらに災害が起こることも懸念されています。

年頭から気の重たい話になってしまいましたが、過日参加した研修会のことをお伝えしたいと思います。

その研修会はESD (Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育) の全国大会です。ESDとは、ユネスコが主導し、国連サミットで2015年に採択されたSDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) 達成の鍵となる取組です。

昨年末第10回大会が横浜で開催されました。ユネスコ本部やアジア各国、日本ユネスコ委員会から役員が訪れ、全国各地から学校関係者や趣旨に賛同する企業・団体が参加し展示や説明を行っていました。

特に印象に残ったのは、宮城県気仙沼高校の生徒の発表です。気仙沼は東日本大震災で甚大な被害を受け、まちの姿は変わってしまい、復興も途上です。気仙沼高校はユネスコスクールに登録し学校としてESDに取り組んでいます。その生徒は地元注目しました。まちを元気にしていくためにはどうしたらよいかを考え主体的に行動したのです。取組前は都会に憧れていたのが、取組を進める中でまちのよさに気づき、「気仙沼が大好き」となり、「将来は地域に貢献できる大人になりたい」と強く意識するようになったというのです。あるきっかけが人の意識を変え、行動を変え、まちを、地域を変えていく力へとつながったのです。

起こったこと、経験したことなど事実は変わらなくても、そのとらえや価値は人の意識、考え方で変わってきます。経験がその人のその後の人生を決めるのではなく、経験をどうとらえ、これから自分がどう行動していくかによって、その人の人生は変わっていくのです。自分の意識を変える、そうすれば自分の行動、力で何かを変えることができます。

本校では毎月全校で歌う曲を決め、各学級及び全校一緒に歌っています。12月～1月の今月の歌は「Believe」という曲です。12月から、毎日のように廊下に子どもたちの澄んだ歌声が響いていました。この曲の歌詞に、「…今未来の扉を開けるとき 悲しみや苦しみが いつの日か喜びに変わるだろう I believe in future 信じてる」という言葉があります。歌の力は侮れません。観念だけでなく、意識、行動へもつながるかもしれません。

学校は、家庭とも協力し、子どもたちが自分の力、可能性を信じ、未来をよりよいものにしていこうという気持ちを大きく育て、行動していく力をつけられるように取り組めます。地域とともに取り組み、あゆむ学校を目指していきます。

「禍い（災い）を転じて福となす。」

平成31年、本年もどうぞよろしく願いいたします。